



11月号

横浜市立中田小学校

学校だより

第444号



中 田 小	学 校 教 育 目 標 さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます。
平成29年10月31日	中田小ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/



最善を尽くす

副校長 今野 敏晴

さわやか大運動会に際しまして、多数のご来賓、地域の方々、保護者の皆様にはご多用の中にもかかわらず、子どもたちに温かい声援をおくっていただきありがとうございました。最後の仕上げの段階で秋の長雨が続き思うような練習ができませんでしたが、順延となった24日は、天候にも恵まれ子どもたちは精一杯取り組み、一人ひとりの成長を感じる一日となりました。

運動会で大切なことは、「一人ひとりが最善をつくすこと」だと考えています。演技にしても一人ひとりがもてる力を発揮して一人の意欲が二人、三人、さらに学級、学年全体の演技に広がります。子どもたち一人ひとりが自分の役割を自覚し、呼吸を合わせるとき、演技は素晴らしいものとなります。また、運動会の中で競う場面があります。勝ち負けもあります。しかし、人と競うだけがねらいではありません。自分が最善をつくした結果が、徒競走であれば6位であってもそれはそれでよいと思います。優勝でも準優勝でも負けた時の一時の悔しさがあるかもしれませんが、後に引きずることはありません。今年はこれだけできたのだから次には自分をどれだけ伸ばしていこう、と考えることが大切です。練習や運動会当日を通して、競うことで自分を育て、自己を練り、力を出し切ることの大切さ、そして、同じように最善をつくしている友達を認め励まそうとする姿勢も学んでいました。

最後の得点が発表される時、子どもたちは、まさに「人事を尽くして天命をまつ」心境となります。自分では最善を尽くしてがんばったもののそれぞれの組の得点は自分がコントロールできるわけではありません。「人事を尽くして天命をまつ」とは、「やるだけのことをやり尽くせば結果がどうであろうと悔いが残らない、後は運命に任せる」という意味です。天候や総合得点など自分でコントロールできないものもあるかもしれませんが、各個人で考えればどうでしょう。練習を見学していると、低学年リレーでがんばっていた子が「ぼくは今年、リレーの選手に絶対になろうと思って、夏休みから走っていたんだ。」と教えてくれました。もちろん「リレーの選手になる」という目標に到達しなかった場合も考えられますが、「絶対に」という力強い言葉に天命に任せるとは違う意気込みを感じました。

イギリスの作家ジェームズ・アレンさんは、「原因と結果の法則」という本の中で、人の行動の全ての結果には運命や偶然はなく、人の「思い」が原因となり行動をすることによって結果につながると紹介しています。「大きな目標に向け思いを集中し、達成を目指すことで集中力と自分をコントロールする能力を磨くことができる。その過程における個々の失敗により心の強さが身に付き、真の成長の礎となる。大きな目標を発見できない人は、目の前にある自分のやるべきことに自分の思いを集中し、完璧にやり遂げようと努力することで集中力と自己コントロール能力が磨かれる。その先により大きな目標が見えてくる。自分こそが自分の人生の創り手である。」と書かれていました。この原因と結果の法則によれば、私に話しかけてくれた子は、リレーの選手に絶対になるという思いが、夏休み中の練習という行動となり、結果に結びついたのでしょう。

また、大きな努力には大きな結果がついてくるそうです。WBA世界ミドル級王者となった村田諒太さんに関する記事に「強い信念を維持し、数々の犠牲を払い、粘り強い努力を続け『血と汗と涙』があればこそその必然の勝利です。」という文章がありました。まさに原因と結果の法則があてはまっていると思いました。

さわやか大運動会を通して、最善を尽くすという努力の結果が一人ひとりの子どもたちの成長につながったと思います。運動会で培った力を今後の学校生活に活かせるよう指導してまいります。

